

Salon

Vol.128 2020年9月 秋号



ホール4F壁画「黄色いブーケとヴァイオリン」

CONTENTS	01	Pick Up
	03	Essay de say — ベートーヴェンのピアノソナタと私 多川響子



ホール主催・共催公演チケット販売状況のお知らせ

ホール主催・共催公演のチケット販売状況についてお知らせいたします。

- ▶ 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に伴い、現在のところ、以下のホール主催・共催公演につきましてはチケットの販売をいったん停止しております。

《主催》	・2020年10月30日(金)	ロータス・クアルテット with フィリップ・トンドゥル
	・2020年11月20日(金)	葵トリオ
	・2020年12月4日(金)	ディートリヒ・ヘンシェル バリトンリサイタル
	・2020年12月10日(木)	今井信子presents 今井信子 x レーラ・アウエルバッハ
	・2021年1月22日(金)	今井信子presents ティモシー・リダウト&今井信子
《共催》	・2020年11月11日(水)	まほろば二重奏リサイタル～サクソフォンデュオの可能性～

- ▶ 以下の2公演につきましてはキャンセルチケットの再販売を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に伴い、現時点では再販売の見通しが立っておりません。

・2020年11月26日(木)	【振替公演】 朴葵姫 ギターリサイタル
・2021年2月21日(日)	【振替公演】 ジョヴァンニ・ソッリマ チェロリサイタル



発売延期のお知らせ

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、今後の情勢をみながら発売を検討するため、以下公演の新規発売を見送らせていただきます。

主催	ヴァルティナ	2021年1月30日(土)
	ミニマル・ミュージックの軌跡 ～オール・ライヒ・プログラム～	2021年2月27日(土)
	伊東信宏 企画・構成 土と装飾: 郷古廉&加藤洋之 デュオリサイタル	2021年3月20日(土・祝)
	2021年度ティータムコンサートシリーズ	
共催	レクチャーコンサートシリーズ「ピアノ三重奏の歴史」第1回: 弦楽器が歌い出すとき	2021年2月13日(土)
	中田麦 マリンバリサイタル 三善晃、一柳慧の音楽	2021年3月10日(水)
	中恵菜 ヴィオラリサイタル	振替日程調整中

今後については、新型コロナウイルス感染症にかかる情勢を見ながら、最新情報は随時ホームページでご案内いたします。諸事情をご賢察の上、皆様のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛公演のご案内

ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

協賛
公演KCM Concert at The Phoenix Hall, Osaka ～関西圏の最大拠点 梅田で展開する芸術音楽～
島田真千子ヴァイオリン・リサイタル

主催 コジマ・コンサートマネジメント

発売中

2020年11月25日(水) 19:00開演 指定席 一般前売・当日¥5,500(友の会会員¥4,950)
2/10「高木和弘(ヴァイオリン)」とのセット券¥9,700 ※2公演セット券は前売のみ・限定数 ※友の会割引は前売のみ

出演 島田真千子(ヴァイオリン)、広瀬悦子(ピアノ)

曲目 ベートーヴェン:ヴァイオリンソナタ 第3番 変ホ長調 op.12-3
ブラームス:ヴァイオリンソナタ 第2番 イ長調 op.100
ショーン:詩曲 op.25
ラヴェル:ヴァイオリンソナタ ト長調

ドイツ国家演奏家資格を取得し数々のコンクールにて受賞、ドイツ等でのリサイタル、またサイトウキネンオーケストラのメンバーとしてセイジョザワ松本フェスティバル参加など精力的に活動を続け、現在、水戸室内管弦楽団、Veritas弦楽四重奏団、セントラル愛知交響楽団ソロコンサートマスターである島田真千子がパリから名手・広瀬悦子を迎えて大阪にて初のリサイタルを開催します。



©Mich el Restary

協賛
公演

山田剛史ピアノリサイタル ～ベートーヴェンの見たもの～

主催 iroha音楽企画

10/1(木)
発売2021年1月10日(日) 14:00開演 指定席 *2020年4月25日(土)の振替公演
一般前売・当日¥3,500(友の会会員¥3,150) 学生前売・当日¥2,000

出演 山田剛史(ピアノ)

曲目 ベートーヴェン:
ピアノソナタ 第8番 八短調「悲愴」 op.13
幻想曲 op.77
ピアノソナタ 第14番 嬰ハ短調「月光」 op.27-2
ピアノソナタ 第17番 二短調「テンペスト」 op.31-2
ピアノソナタ 第21番 八長調「ワルトシュタイン」 op.53

イギリス組曲全曲演奏やゴルトベルク変奏曲など、バッハの演奏に定評のある山田剛史が、生誕250年のベートーヴェンと向き合います。音楽の世界に啓蒙主義の光をもたらしたのがベートーヴェン。例えば「ワルトシュタイン」ソナタの冒頭には、フリーメーソンの会員を示す「扉をノックする音型」が聞こえますし、第2楽章冒頭の美しく壮大な「夜明け」は、新しい時代の幕開け、社会の大きな変革を暗示します。古楽器の演奏経験も踏まえ、ベートーヴェンの名曲に新たな視点で切り込みます。



©Masaaki Hiraga

協賛
公演KCM Concert at The Phoenix Hall, Osaka ～関西圏の最大拠点 梅田で展開する芸術音楽～
カミュ・サン=サーンス没後100周年記念 高木和弘の“サン=サーンス讃”

主催 コジマ・コンサートマネジメント

発売中

2021年2月10日(水) 19:00開演 指定席 一般前売・当日¥5,500(友の会会員¥4,950)
11/25「島田真千子(ヴァイオリン)」とのセット券¥9,700 ※2公演セット券は前売のみ・限定数 ※友の会割引は前売のみ

出演 高木和弘(ヴァイオリン)、佐藤勝重(ピアノ)

曲目 サン=サーンス:
ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ長調 op.20
ロマンス 八長調 op.48
ハバネーズ op.83
死の舞踏 op.40
序奏とロンド・カプリチオーソ op.28
ヴァイオリンソナタ 第2番 変ホ長調 op.102

エリザベート王妃国際コンクール、ジュネーヴ国際コンクールなど国内外での数々のコンクールにて受賞、現在は長岡京室内アンサンブルやダラス室内楽交響楽団コンサート・マスター、A Hundred Birdsのヴァイオリニストとして活躍の高木和弘によるカミュ・サン=サーンス没後100周年を記念してオール・サン=サーンスプログラムをお届けいたします。



©八木 毅

チケットセンター来店窓口 臨時休業継続のお知らせ

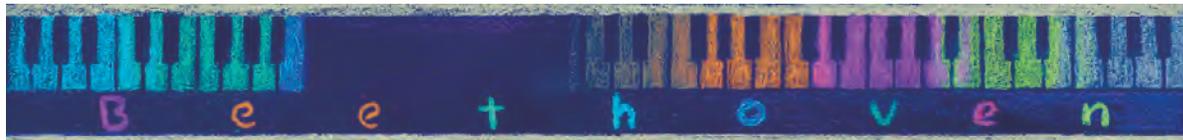
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、引き続きビル8階のチケットセンター来店窓口を臨時休業いたしております。恐れ入りますが、チケットのご予約・ご購入につきましては、お電話にてお申込みをお願いいたします。チケットの引き取りにつきましては、当面の間、郵便局からご入金後、送付のみとさせていただきます。お客様には大変ご不便をおかけいたしますが、何とぞご了承くださいますようお願い申し上げます。

<来店窓口臨時休業中> チケットお申込み後のお受け渡し方法

先に郵便振り込みをしていただき、入金確認後チケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいてから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。なお、郵送は簡易書留(一律420円)のみとさせていただきます。

振込口座 00940-0-95351 加入者名 ザ・フェニックスホール

ベートーヴェンのピアノソナタと私 — 多川響子



Keizo Matsui

ベートーヴェンの32曲からなるピアノソナタ集。それはまるでアルプス山脈のようである。

際立った頂ぎと様々な表情を持った山々が圧倒的な存在として人々を常に魅了し続けてきたアルプスの連なり。そして一曲一曲に多彩で斬新なアイデアと恐るべき才能が吹き込まれ、生誕から250年を迎える今なお世界中から愛され演奏され続けるベートーヴェン32曲のピアノソナタ。自然が地球に生み出した最高傑作とベートーヴェンが音楽界に送り出した最高傑作。私には同じパワーを秘めているように感じるのだ。

その32曲の中でも名作と言われ特に人気なのが「悲愴」「月光」「テンペスト」「熱情」「ワルトシュタイン」のいわゆる五大ソナタだ。これらのソナタを演奏する機会は他のソナタに比べて圧倒的に多いのだが、弾くたびに新たな感動があり、興奮を覚える。息をのむほどの緊迫感、マグマが噴き出すような爆発、突き抜ける喜び、緩徐楽章での祈りのような安らぎと静寂。そこにはドラマ性やメッセージがあるからだろう、私の心はおおいに揺さぶられるのだ。

私は2009年から2011年の3年間でピアノソナタ全曲演奏会を行った。ピアノを学ぶ者にとってベートーヴェンのピアノソナタは若いころから必ず触れるものであり、私も小さな頃から多くのソナタを弾いてきた。しかし32曲全曲となると相当な覚悟とエネルギーを要することはわかっていたものの、私には何か突き動かされるものがあり、やってみようと思ったのだ。

その際にはベートーヴェンが12歳の時に出版した3曲の《選帝侯ソナタ》も加えたので、全35曲の9回に及ぶ連続演奏会となった。(幸運なことに、その全曲シリーズでは会場のザ・フェニックスホールさんが協賛していただき、当時海のものとも山のものとも分からないピアニストである私の企画に賛同してくださったことを心から感謝するばかりである。)

その3年間はまさにアルプスへの登山に初挑戦するかのごとく、無我夢中で日々ベートーヴェンと向き合い、闘っていた。毎回のコンサートでプログラムを組む際、必ずそのコ

ンサートの“山”となる曲を選ぶのだが、その中でも第29番(op.106)の「ハンマークラヴィア」は私にとって最も高い山となった。群を抜いて長大であり難曲。とくに最終楽章のフーガには悩まされ、この回が終わってしばらくして小さな円形脱毛症が出来ていたのは今となってはほろ苦しい思い出だ。

ベートーヴェンはピアノの作品を作っているが常にオーケストラを意識し、ピアノソナタから交響曲へといかに繋げていったのかということ強く感じさせられる。そして他方、「ピアノ」という楽器の可能性との闘いだっただけでも感じ取れ、とても興味深いものがある。頭の中では鳴っているのに実際に鍵盤が足りない!とか、音量や機能が十分でない!という彼の不満こそが楽器の進歩や発展を促したのだ。その結果当時の最新のピアノから「ワルトシュタイン」や「熱情」が生み出されたのである。そしてそれ以降の作品にも重量感のある響きと音量、美しい弱音、ペダル効果、長く続くトリルなど、より多様な表現が盛り込まれることとなったのは周知の事実だ。現在私たちが当たり前のよう弾いているピアノはベートーヴェンがいたからこそ、なのである。

ともあれ長い道のりだった全曲演奏会を終えてみると、以前にも増してどの曲もより一層愛おしくなった。そしてアルピニストがアルプスの有名な頂以外にも隠れた名峰がたくさんあることを知っているように、ベートーヴェンのピアノソナタにも隠れた名曲がたくさんあることを再認識できた。それからは普段のコンサートであまり弾かないソナタも五大ソナタのようにもっと頻繁に演奏してみようと思うようになり、実際に数多く取り上げてきた。

生誕250周年である今年は本来ならばコンサートがあちらこちらで開かれ、演奏者にとっても聴衆にとってもベートーヴェン漬けの一年になるはずだった。しかし、このようなコロナ禍で叶わずということになってしまい私にとっても非常に残念ではあるが、来年も再来年もずっと彼の音楽と魂を追い求めることには変わりはない。

多川響子(たがわ・きょうこ)/ピアノ

京都市立芸術大学音楽学部卒業および同大学大学院音楽研究科修了。ドイツ・ドレスデン音楽大学卒業。コントラバス奏者サンデル・スマランデスク氏と行なったデュオリサイタルに対し2002年度バロックザール賞受賞。2009年～2011年の全9回シリーズ「ベートーヴェン ピアノソナタ完全全曲演奏会 ～ 35のソナタ～」は日本経済新聞をはじめ、各紙に取り上げられ好評を得る。現在、ヨーロッパ、アジアをはじめ国内外でも活動を行っている。大阪芸術大学、京都市立京都堀川音楽高校、滋賀県立山高校音楽科各非常勤講師。 tagawakyoko-pf.com



あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールをフェニックスタワー内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー8F TEL 06-6363-0211

Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

発行年月 2020年9月
発行 あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール
編集 諸藤修一
デザイン 松井桂三有限公司

